

ふるさと福井を守っていくために

長畝小 四年 佐野 帆南

「田んぼってすごいね。農業ってすごいよね。」

田んぼって、ひふ、としたら天才かも。

「FUKUI 2030」を読んで、福井の

田んぼがすごいということが分かりました。

田んぼの機能は、洪水防止、水質浄化、生態

系、気温低下、空気の浄化、地すべり防止な

どこんなたくさんあることが分かりました。

私は、田んぼがなんてすばらしいのだろうと

思いました。

私は四年生になって新聞の勉強が始まっ

たので、よく新聞を読むようになりました。

まずまず、すごい記事も見つけました。何

と、田んぼを太陽電池にするという記事です。

田んぼの土には、電気を発生させる「電流発

生菌」がいるそうです。これからの研究で、

家庭すべての電気をまかなったり、電気がラ

クターを動かしたりできるようになりそうで

す。これはすごいエピソードです。環境を守るうえ

この水田の役わりがますますアツプです。

気になる記事も見つけました。それは「農業がなくなる。TPP反対、農業は、地域、環境、未来の日本を守ります」という記事です。TPPとは、ニュージーランド、アメリカ、オーストラリア等九か国を対象に、物品の関税をてっばいするというものでした。日本の農業は、ただでさえ少子高齢化でやる人も少ないのに、海外の安い農作物とは戦えないと思えます。福井県の農業の中心はお米です。

「わあ。きれいだな。これは、私が地球を観測する人工衛星「だいち」が地表七百公里メートルの高さからとらえた福井県の地図マップを見た時の感想です。なぜなら、田んぼが緑色のマイルもようになっ、ていて、その周りには深緑色の山々があるからです。

私は、自分の家を探すために、地図マップに飛び乗りました。私の家は、福井県坂井市丸岡町千田というところにあります。千田と

いう字の通り、田んぼだらけです。だから、  
緑の田んぼがたくさんある所を探しました。  
や、と自分の家を見つけたとき、町内の田ん  
ぼがほとんど茶色だ、たのでとてもひくり  
しました。不思議に思ったので、家に帰って  
おばあちゃんに聞きました。おばあちゃんは、  
「休こう田じゃないかな。お米があまるから、  
国から休んて言われるんだよ。休んでい  
る間は、麦やそばを作るんだよ。」  
と教えてくれました。私の家は、田んぼを持  
っているけれど、近所の人に作ってもらって  
います。だから、父、母、私は田んぼのこと  
はよく分かりませんでした。

なんで私の町内の田んぼが茶色か？それは、  
私たちがパニヤスパケツティーなど小麦を原  
料とする食品をよく食べるようになったため、  
米を食べる量がへってきて、米があまってい  
るからです。でも日本であまっているのは米  
だけですよ。これから天候やまわりの環境の変  
化によって、いっもあまっているとはかきり

ません。私たちの主食はお米です。私はパニ  
やスパゲッティも好きですけど、やっぱり白  
いご飯が一番大好きです。ご飯はどんなおか  
すにも合おうからです。日本の食糧自給率は四  
十パーセントでも低いです。お米は日本  
でただ一つ自給ができる大事な食料です。た  
から、自分の国で作ったほうがいいと思いま  
す。お米を食べることはエコにもつながりま  
す。小麦は輸入するため、船や飛行機を動か  
すので地球温暖化の原因となる二酸化炭素を  
たくさん出すからです。お米を食べると地球  
と、いっしょに健康になれます。

田んぼを守っている農業は人間の命をま  
かる本当に大切な職業だと思います。もし  
田んぼがなくなったら、食べものがなくなり  
気候も変化して洪水や日照り、生き物への影  
響も起きているのではと、とても心配になり  
ました。

田んぼは、人間や他のたくさん生き物の  
大切な宝物だと思います。春には、川から引

かれた水でいっぱいになった田んぼに苗が植  
えられ、その水の中にはゲンゴロウやヤブが  
泳いでいます。オタマジャクシはカエルにな  
って陸に上がり、それをねらってへびや鳥が  
やってきました。

私が当たり前だと思っ、ていたおだやかで美  
しい心がほっとするふるさと福井の風景が二  
十年後はどうなっているかな。私がおばあち  
やんになっても変わらぬにいて欲しいと思  
います。地球環境を守るためにも身近なふるさと福井を守っていかねばいけないと思  
いました。失いかけたものを守り続けられ、い  
つかきつといい事があると思ひます。このゆ  
たかなふるさと福井をし、かり守っていくた  
めに、私が今出来る事といえは、お米を食べ  
る事と、食べ残しをしない事、水や電気を大  
切にする事など、エコに関する事だけで  
す。けれどもやり続ける事が大事だと思ひます。